



2019年度 中堅・中小企業の米国進出支援研修プログラム募集要項

1. 趣旨・目的

- 中堅・中小企業が海外展開を考える際、進出先国における行政機関やビジネス界とのつながり・人的ネットワークを構築しておくことは、大きな第一歩となります。とりわけ、法制度や商慣行がある程度確立している先進国において、自社の製品やサービスが受け入れられるのか、受け入れられたとしてもその後どう展開していけばよいのかなど、大企業のように駐在事務所を持たない中堅・中小企業が1社で考えていても、なかなか解決策が見えてこないのが現状ではないでしょうか。
- 日本と米国の間で、両国の議員間や行政官同士、さらには研究者同士の相互交流を長年進め、日米両国間の人的交流を通じて、両国の「懸け橋」となってきたモーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団（以下「マンスフィールド財団」という。）が、このたび、新たに、訪問研究員プログラム（以下「本プログラム」という。）を創設いたしました。本プログラムでは、日本の中堅・中小企業の担当者の方々と、米国の行政機関、関連ビジネス界との交流を進め、日本企業の米国進出をサポートしてきます。
- 中小企業庁にも、中堅・中小企業の海外展開支援の観点から、本プログラムの目的にご賛同いただいております。

2. 具体的な研修プログラム内容

- 本プログラムは、米国への進出を検討している中堅・中小企業が、原則2週間、ワシントン DC にあるマンスフィールド財団のオフィスに駐在し、その間、原則として研修生の希望に応じて、マンスフィールド財団が、米国の行政機関（例えば、商務省や農務省、保健福祉省など）や議会スタッフのキーパーソンに橋渡しするとともに、関連する産業界・ビジネス界との面談や人脈・ネットワーク作りをサポートするというものです。
- もちろん、ワシントン DC で日々行われている様々な分野のセミナーやコンフェレンスに参加することができ、そこで人脈をさらに広げることができます。さらに、これまで、マンスフィールド財団が日本に研修員として送ってきた米国人約160名のマンスフィールドフェロー同窓生（米国の様々なフィールドで活躍中の米国行政官・議会スタッフ等）とのネットワークも構築できます。

内容一覧

- ② 対象企業：米国への進出を検討している中堅・中小企業（業種は問わない）
- ② 対象期間：原則2週間（開始時期については、要相談）
- ③ 研修内容：研修員の要望をもとに決定します。例えば、自社製品・サービスの米国への輸入や流通に関わる規制や許認可関係に関心があれば、関連する複数の行政機関や関連する業界団体や米国企業の担当者との面談を中心とした研修内容とします。
- ④ 派遣先：ワシントン DC のマンスフィールド財団本部のオフィス（1室3名のシェアオフィス環境で自らのデスクが支給される。そのうち1名は他の機関から派遣される研修員）。
- ⑤ 研修生の要件：
 - 英語による一定のコミュニケーションが取れること。会合によっては、通訳アレンジも可能ですが費用は自己負担。
 - 自主的に活動すると同時に、財団職員やプログラム参加者と協調的に情報やアイデアを共有すること
 - 財団オフィスに定期的に出勤すること
 - 年齢や性別は問いません
- ⑥ マンスフィールド財団からの支給：日米間の往復航空券、ワシントン DC での宿泊費



⑦自己負担となる費用：日本国内の渡航費、米国滞在費（食費、雑費）、海外渡航に係る保険、ESTA

3. 研修スケジュール例

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	マンسفールド財団によるオリエンテーション	米国議会訪問	戦略国際問題研究所 (CSIS) 訪問	規制当局担当者との面談	視察（例：関連企業）
ランチ	マンسفールド財団スタッフとの計画会議	米国議会の議員スタッフとの会食	ワシントン日本商工会財団メンバーとの会食	元マンسفールドフェローとの会食	意見交換
午後	米国商工会議所訪問	ヘリテージ財団訪問	米国事業者団体との会議	ブルッキングス研究所訪問	視察（例：関連企業）

4. 応募手続き

- (1) 募集期間： 2019年4月22日～6月30日
- (2) 応募方法： マンスフィールド財団 東京事務所に（別添2）申請用紙をお送りください（連絡先は6.を参照）。
- (3) 選抜期間（書類選考）： 2019年7月

5. よくある質問

Q1. 既に米国に進出していますが、研修生を派遣できますか？

→もちろんできます。

Q2. 派遣先は、ワシントン DC に限られるのですか？

→限られます。これは、マンسفールド財団の職員による「橋渡し」サポートを受けていただくために、その本部オフィスがあるワシントン DC にいていただく必要があるからです。

Q3. 年間で何社程度が参加できるのですか？

→ 6社を想定しています。原則として、派遣期間は、2019年10月～2020年4月（派遣時期は要相談。）

Q5. マンスフィールド財団のPCは、日本語が使えますか？

→研修生が利用できる共用PCは、英語版のWindowsとなるため、日本語を使用する場合及びノートパソコンを必要とする場合は、持参されることをお勧めします。

6. 連絡先

モーリーン・アンド・マイク・マンسفールド財団 東京事務所

（住所）〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16 国際文化会館 1F

（電話）03-5413-5885 / （FAX）03-3478-1773

（E-Mail）tokyoadmin@mansfieldfdn.org